

「みみはら2030年の樹」に 豊かな「実」がむすぶように



社会医療法人 同仁会
 理事長 **田端 志郎**

**同仁会にとって
 大きな転換点となる年**

新年あけましておめでとうございます。コロナ禍が始まって、3年が経ちました。同仁会は、全役職員と健康友の会みみはらが心を一つに奮闘し、多くの方に必要な医療と介護を提供しました。皆さんに、心から感謝申し上げます。今後はコロナ対応を前提としながらも、先を見据えた事業展開をしていかなければなりません。今年、同仁会にとって、大きな転換点になると考えています。

私は2030年に実現すべき姿として、「みみはら2030年の樹」を提案しました。「無差別・平等」の医療・介護・福祉事業を地域に展開し、「安心して住み続けられるまちづくり」を行うために必要な要素を、「樹になった多くの実」として表わしたものです。それを具体的な中期事業計画に成文化する作業に着手します。債務超過を解消し、理念実現のための事業展開を考えられるようになったおかげです。



**かじ取りを誤らないよう
 皆さんから多くの意見を**

計画の実現には、大きな投資が必要になります。社会保障費が削減されていく中、同じことを続けていくだけでは、組織を維持していくことはできません。新たな事業を行っていくと同時に、「たまたかい」も行っていかなければなりません。同仁会のかじ取りを誤らないよう、皆さんから多くの意見を寄せていただきたいです。

同仁会にとって「たまたかい」姿勢こそが、人権を守る「一歩前に踏み込んだ」対応につながるの

**戦争政策に真っ向から
 反対する年に**

反対する年に

だと感じています。私たちは人権を侵害する政策に反対し、たまたかかって、それをより良い方向に変えようとしています。そのことが、現場での取り組みを後押しし、より力強いものになっています。たまたかいは事業と別に行うものではなく、私たちの存在意義を支えるものです。

今、政府は「敵基地攻撃能力」を不可欠とし、増税により年間5兆円もの軍事費を増額しようとしています。いのち、健康、くらしを守る医療・介護従事者として、断じて許すことはできません。皆さんとともに戦争政策に真っ向から反対する年にしたいと思えます。今年もどうぞよろしくお願いたします。

